

詔みことりにこたへむためにま儲けてつく作る歌一首 并あはせ
て短歌たんか

四二六六番

あしひきの 八やつ峰をの上うへの つがの木の いやつ継つ
ぎつ継つぎに 松まつが根ねの 絶たゆることなく あをによ
し 奈良ならの都みやこに 万代よろづよに 国くに知らさむと やすみ
しし 我わが大君おほきみの 神かむながら 思おもほしめして 豊とよ
の宴あかり 見めす今日けふの日は ものひのふの 八十やそ伴ともの
緒をの 島山しまやまに 赤あかる橘たちばな うずに刺さし 紐ひも解とき放さ
けて 千ちとせ年ほ寿ほき 寿ほきとよもし ゑらららに 仕つか
へ奉まつるを 見みるが貴たふとさ

反歌一首はんか

四二六七番

天皇すめろぎの 御代みよよろづよ万代よろづよに かくしこそ 見めし明あきらめめ
立たつ年としのはに